

---

# 魔王様は苦勞性

水沢 流

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔王様は苦勞性

### 【Nコード】

N6780Y

### 【作者名】

水沢 流

### 【あらすじ】

「魔王だつてラクじゃない」

人心を惑わす悪魔を統べる事になっちゃった、そんな魔王の物語。美貌と力を兼ね備え、いざ執務を開始してみれば問題山積み。そんな中で悩み悩み、頑張るヘタレの奮闘記。

-----

作者より：

読んで下さっている方、ありがとうございます。  
遅筆ですが、毎週月曜日の夕方にはアップできるよう頑張ってみます。

## プロローグ

深淵の主、脅威の権化。

恐怖の代名詞、病魔の担い手。

人を惑わす美貌を持ち、指先一つで災厄をもたらす

それらを統べるとされる魔王は、その日、神妙な面持ちで水晶珠をのぞき込んでいた。

十 十

「納得いかんわーっ！」

髑髏の盃を握り締めた魔王の手の中で、ぐしゃりと砕けた盃から鮮血が溢れ出る。

それは阿鼻叫喚の声をBGMとする魔界の最深部、立派な城の中の事であった。

カァン！と高い音を立てた破片が、そのまま黒い焰と化して消えて行く。

その末路を見送って、床に転がった首の一つがそろりと口を開いた。

「ま、魔王様……」

怒り心頭の主を見据えて、その声を震わせたのは「悪魔」。

手足を吹き飛ばされ、首だけになったそれが、ひどく恐縮しながら主の顔色を伺う。

この悪魔は命令に従い、一つの国に宿り、その国を滅ぼしたばかりである。

本来なら褒め言葉を賜っても良い筈なのに、主から帰って来たの

は見ての通りの暴力だったのだ。

「何か不備でも御座いましたでしょうか……」

さりげなく取れた腕で他のパーツを回収しながら、悪魔がしょんぼりと眉尻を下げる。

それを切れ長の紫の瞳でギロリと睨み、魔王は無言で水晶珠に手をかざした。

途端にふわりと浮き上がった水晶珠から、その中に映っていた景色がホールへと滑り出す。

そこには、何やら両手を上げて喜ぶ民の姿が映し出されていた。

「……見えるか」

「はい」

「これでは本末転倒ではないか！ 俺は、俺はお前なら上手くやれると……っ！」

涙目でそう喚く魔王に、悪魔が申し訳なさそうな顔をする。

景色の中で大喜びしているのは、滅ぼした国を良く思っていないかった国の民。

つまり悪魔が一つの国を滅ぼした事で、他国の民を喜ばせる事になっちゃった と言う事なのだが、

「……すみません、ううっ……ぐすっ……」

「俺の方が泣きたいわっ！」

と、秀麗な面差しを歪め、魔王が再びの怒声を響かせる。

魔界の民が糧とするのは、人々の恐怖や怨嗟と言つ負の感情。  
つまる所、最大公約数で恨まれ、恐れられてなんぼなのだ。

「……戦わねばな、現実と」

深々と骨の玉座に身を沈め、両手で顔を覆つて大仰に嘆く。

人の負の感情を糧とする魔族を養つ身分として、魔王の気苦労は  
減りそうにもなかった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6780y/>

---

魔王様は苦勞性

2011年11月21日22時42分発行